



永島福太郎 録  
かこ しの  
魔島  
せん 戦記  
後編  
加号  
賀  
吉版

壮年隊

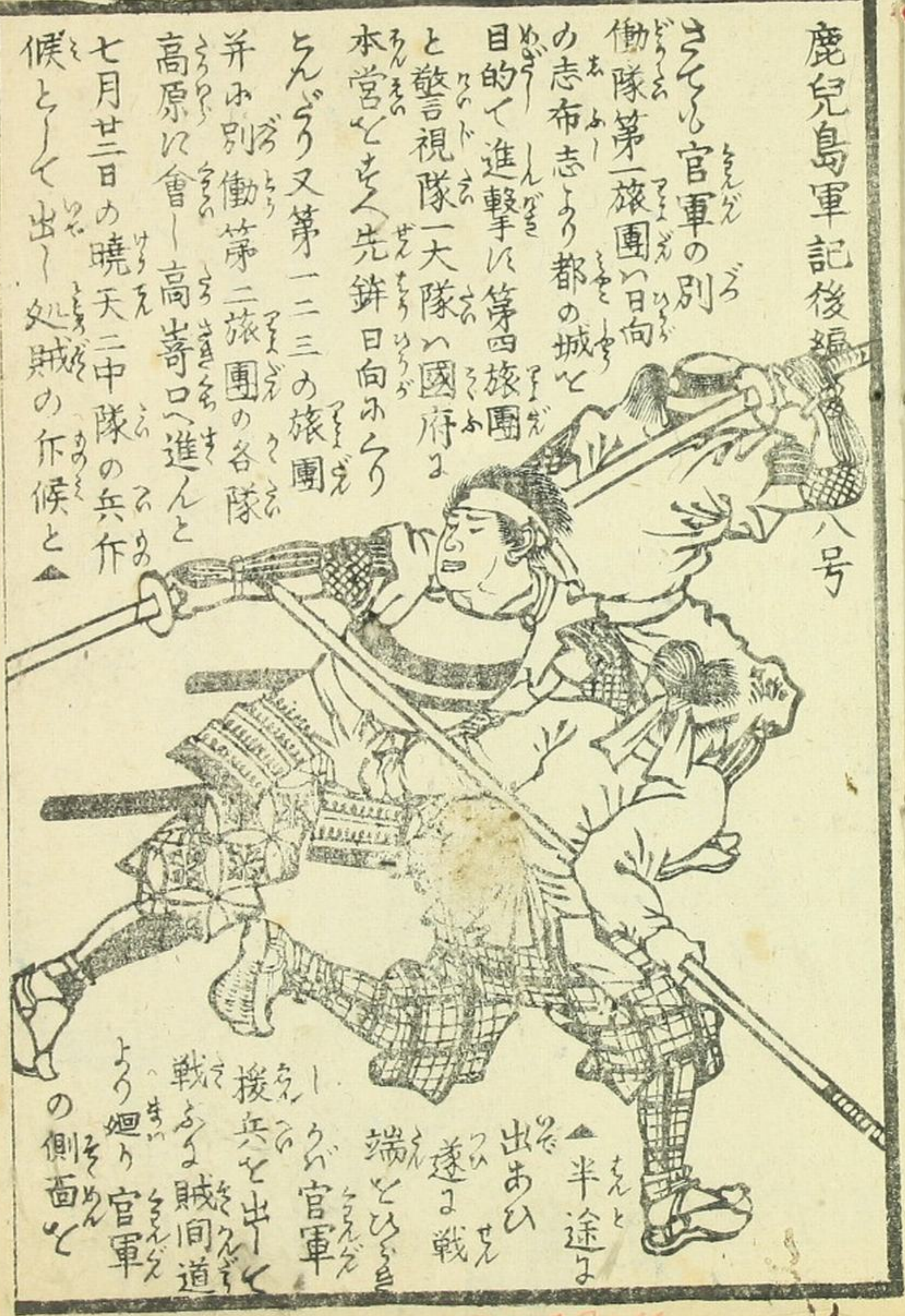


永島福太郎録  
永島孟齋畫

A485  
8

繪本 鹿兒島戰記

東京書肆 青盛堂版



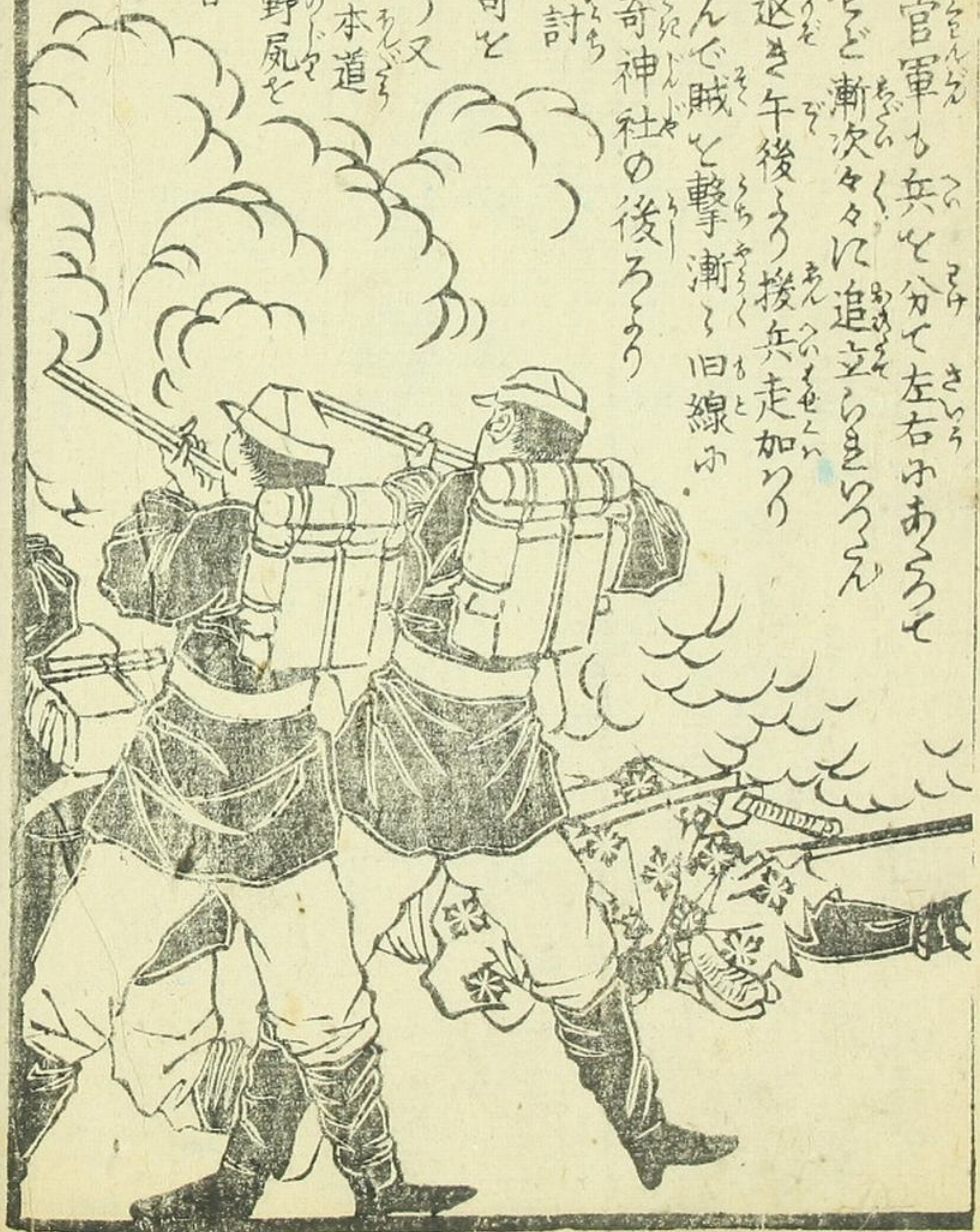
鹿兒島軍記後編 八号

さして官軍の別働隊第一旅團日向の志布志より都の城々目的で進撃し第四旅團と警視隊一大隊へ國府本營と先鋒日向よりえんがら又第一二三の旅團并別働隊第二旅團の各隊高原に會し高崎口へ進んと七月廿三日の曉天二中隊の兵作候とて出で賊の作候と

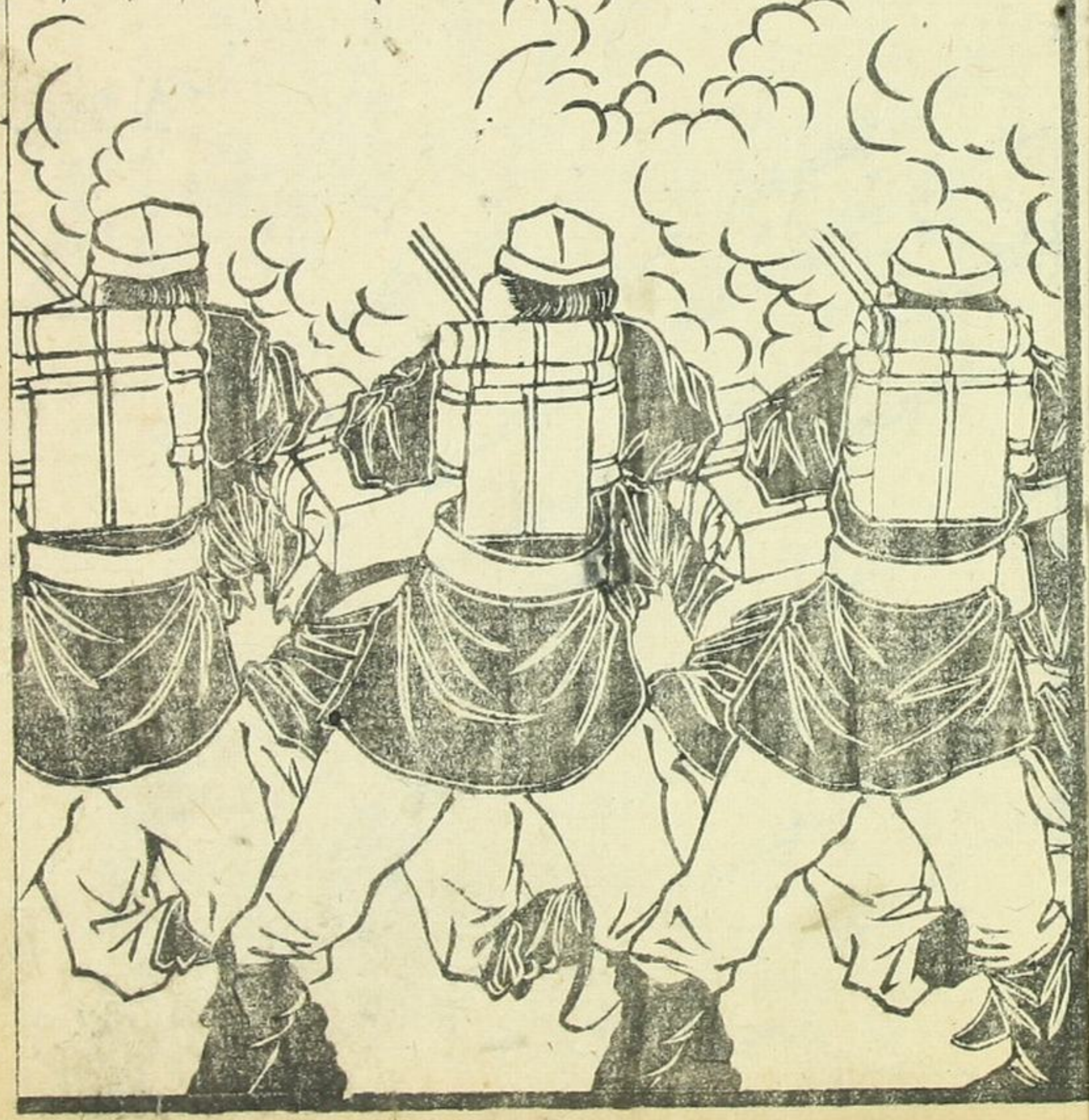
▲半途より出あひ遠く戦端とひ官軍援兵と出でて戦ふ賊同道より廻り官軍の側面と

48-2904

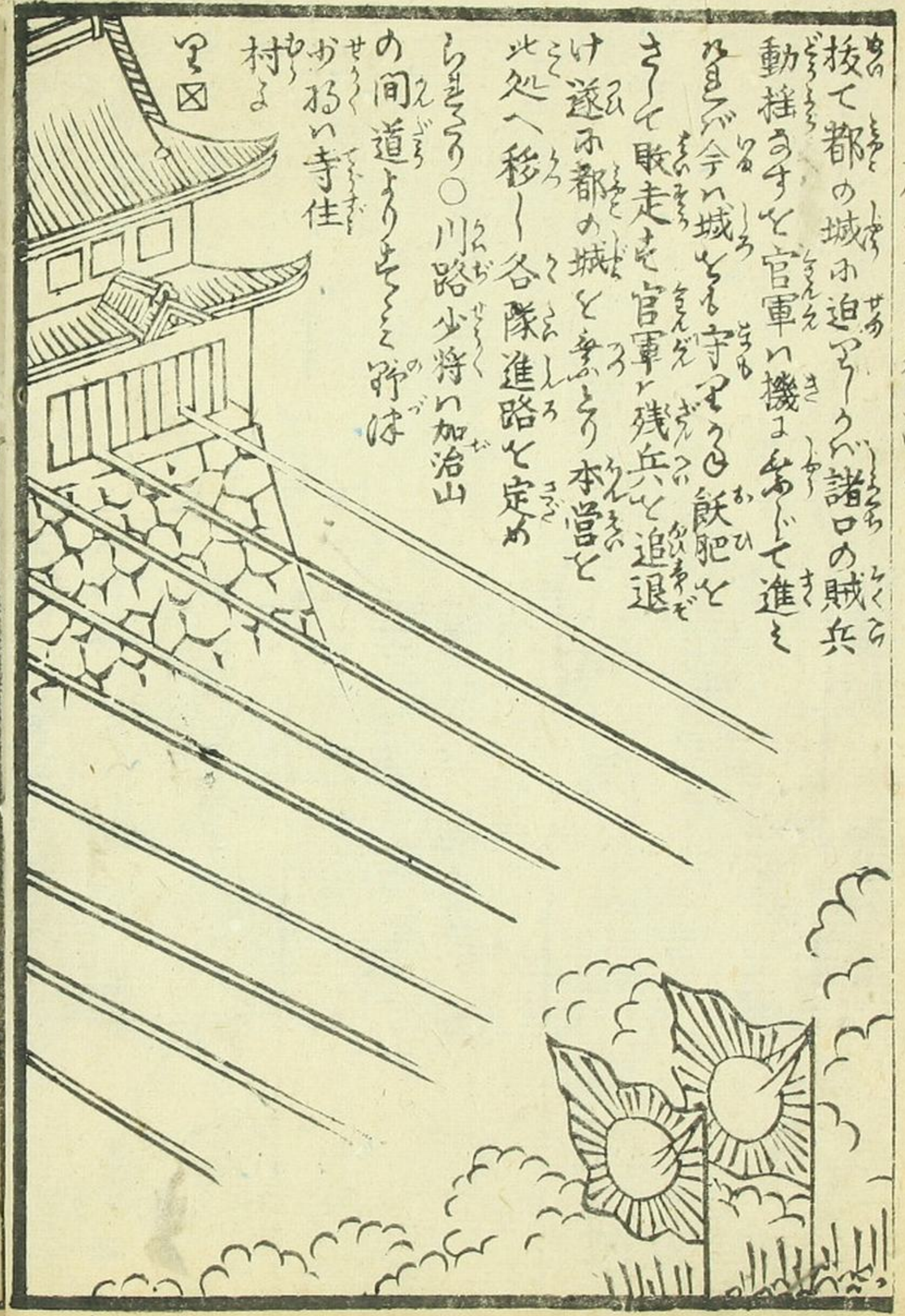
撃つに官軍も兵を分て左右にあつて  
 奮戦をせど漸次々々に追立てらるる  
 と引退き午後より援兵走加り  
 再度もんで賊と撃つ漸く旧線  
 復し高寄神社の後ろより  
 山道と追討  
 して高寄と  
 らるひらう又  
 小林より本道  
 と進んで野尻と  
 同日  
 諸道の官  
 軍都の城



小迫に別働隊  
 第一旅團末吉  
 小たう川路の  
 各賊部小戦  
 以三浦の庄内  
 各我の通り山  
 等みせありて烈  
 戦ひり賊も茲と  
 やがてと厳  
 防戦をすちとふ  
 りつ果てるとも  
 ざしが川路の  
 諸隊先立賊部



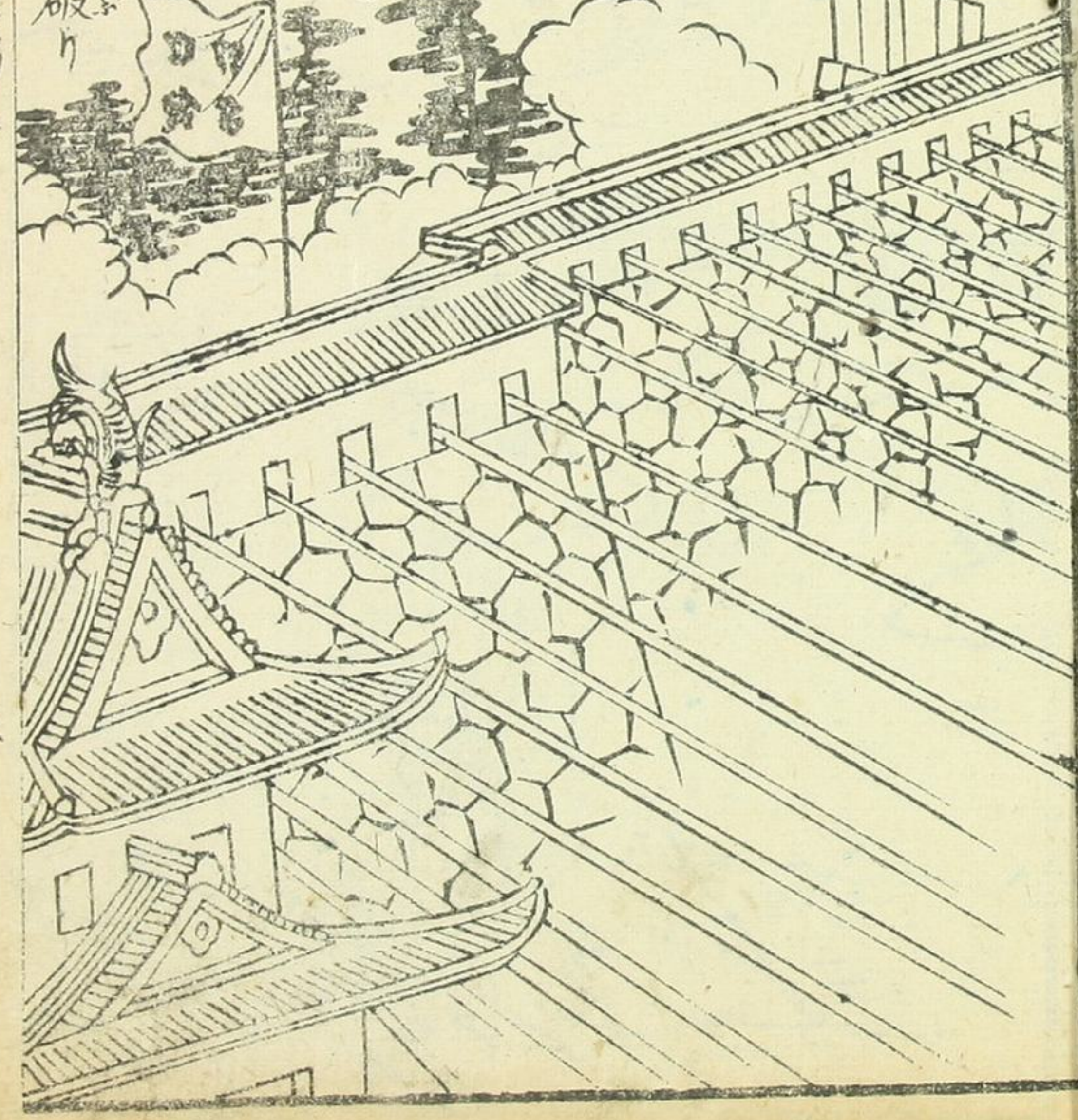
按て都の城の迫りて諸口の賊兵  
動揺すや官軍の機よあはして進  
むるに今城守るは既肥を  
さして敗走を官軍と残兵と追退  
け遂に都の城と争より本營と  
此処へ移し各隊進路を定め  
らるる○川路少将の加治山  
の同道よりとて行は



村の寺住  
の同道よりとて行は

本道と  
遊軍と

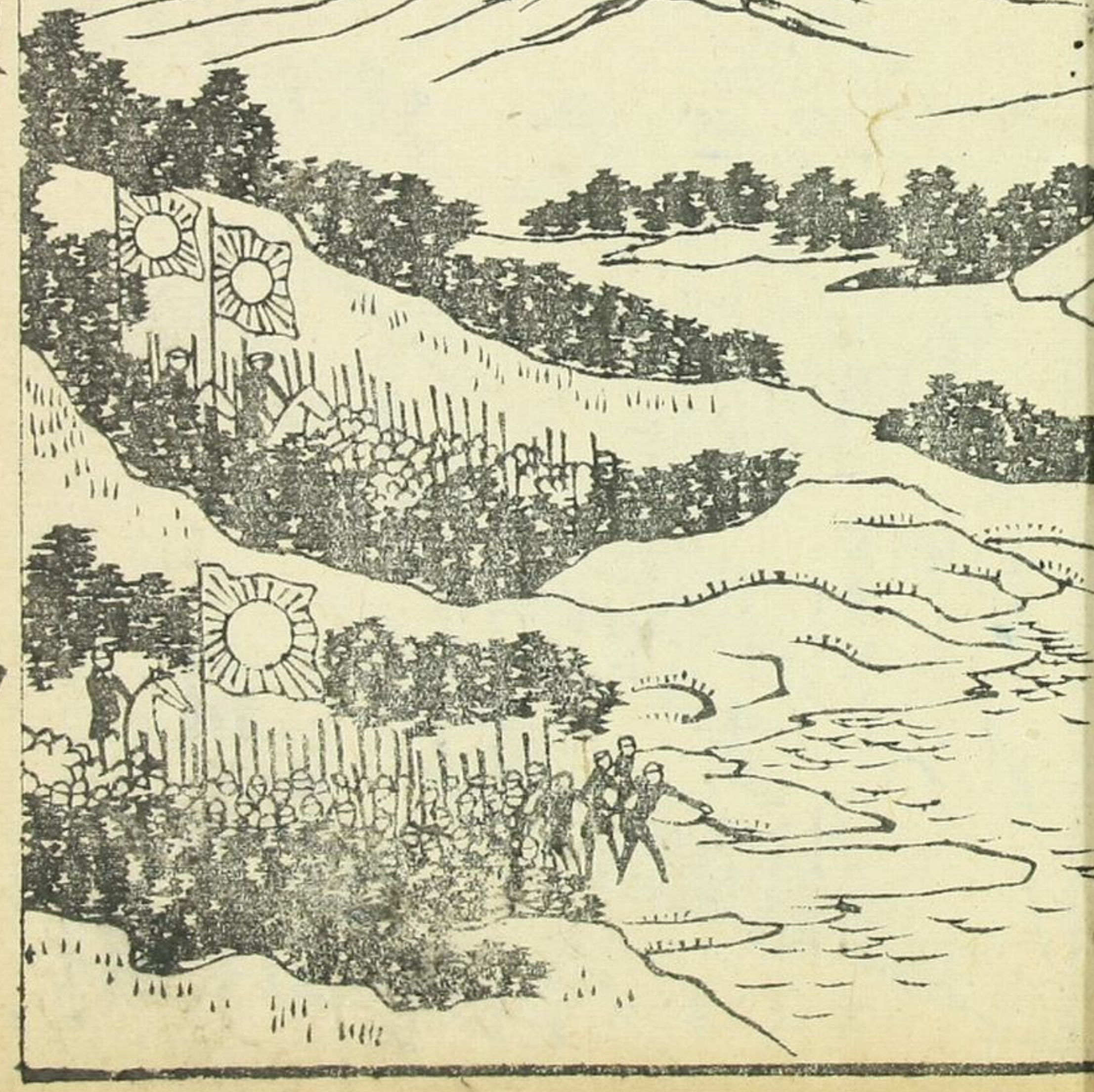
ついで既肥をさして  
進撃す川路少将の  
加治山へ進みし小  
賊山向ふ砲臺を築き  
進路をさぐる官  
軍の勢ひふかり  
賊を破り加治山を抜  
同廿五日諸處の賊を破り



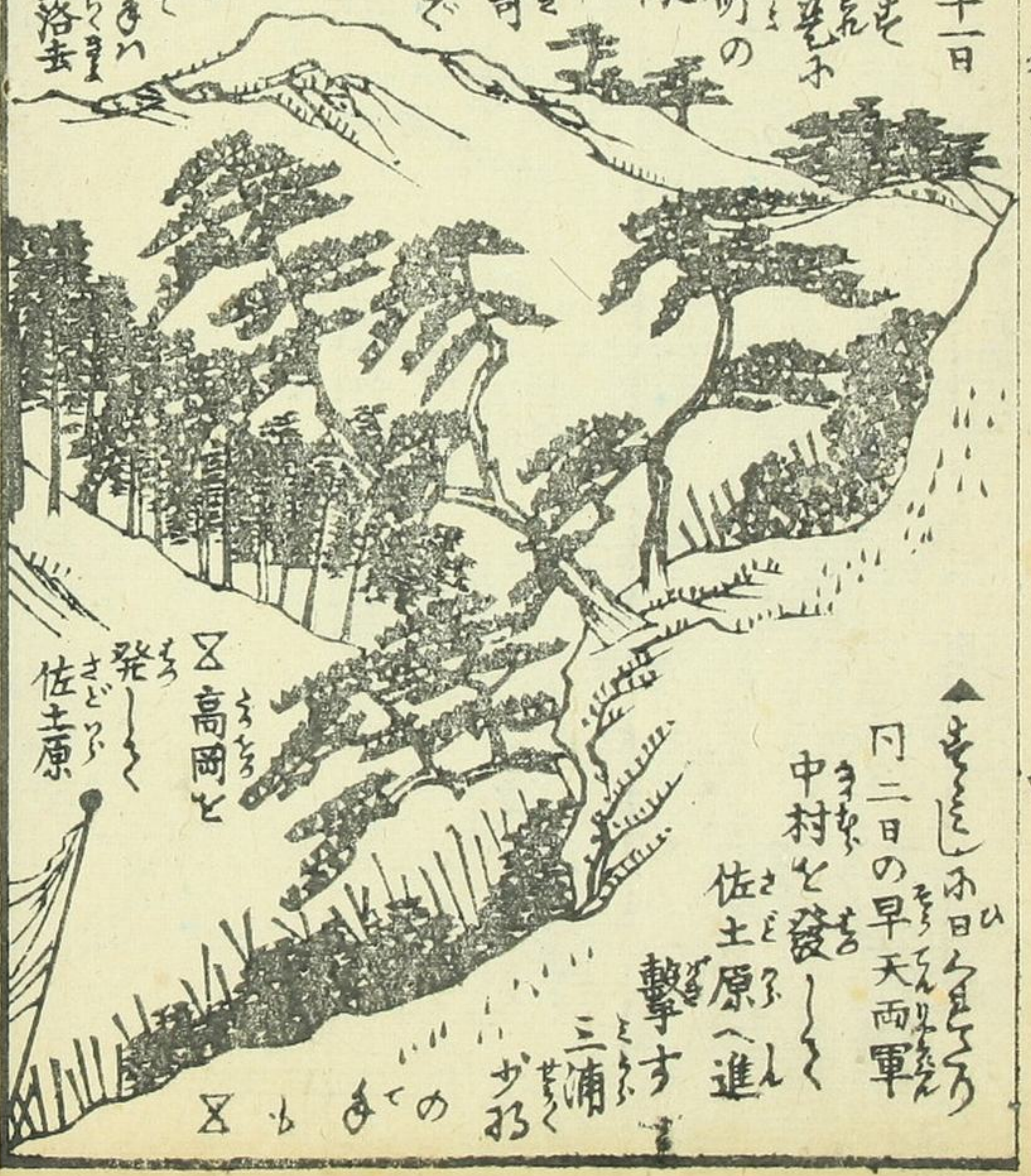
先鋒の大隊は  
 月廿七日 鉄肥に進  
 入せしが賊戦りて  
 帰順せり官軍の戦  
 少もあらず鉄肥と  
 する本道よりすし兵  
 田野小會一 月三十日  
 我少将の吉川より  
 川と中よりえん心宮崎  
 の賊と砲戦す〇扱  
 三浦少将の高等と  
 経て高城より  
 三好少将の野尻より



綾村より高岡へ  
 進む又山田少将の綾  
 村より本庄街道を  
 進み本林永村とまれば  
 本庄より綾川と  
 へそ守線とより  
 たり高城より  
 三浦のより月廿九日  
 七小隊の兵を出して  
 國峠と越へ吉川と  
 涉り高岡と達し  
 鉄肥よりあり川路少将  
 のムカサロより三浦の



もと合し同二十日  
宮寄へ進撃す  
曾我少将の軍は  
力ありて諸所の  
賊を敗り三隊  
合し攻撃す  
同日八時小宮寄  
と宗より賊あせ  
とありて佐土  
原へ遁走す  
また山田少将と  
三好少将の両軍  
宮がれの賊兵落去



同日の早天雨軍  
中村を發し  
佐土原へ進  
撃す

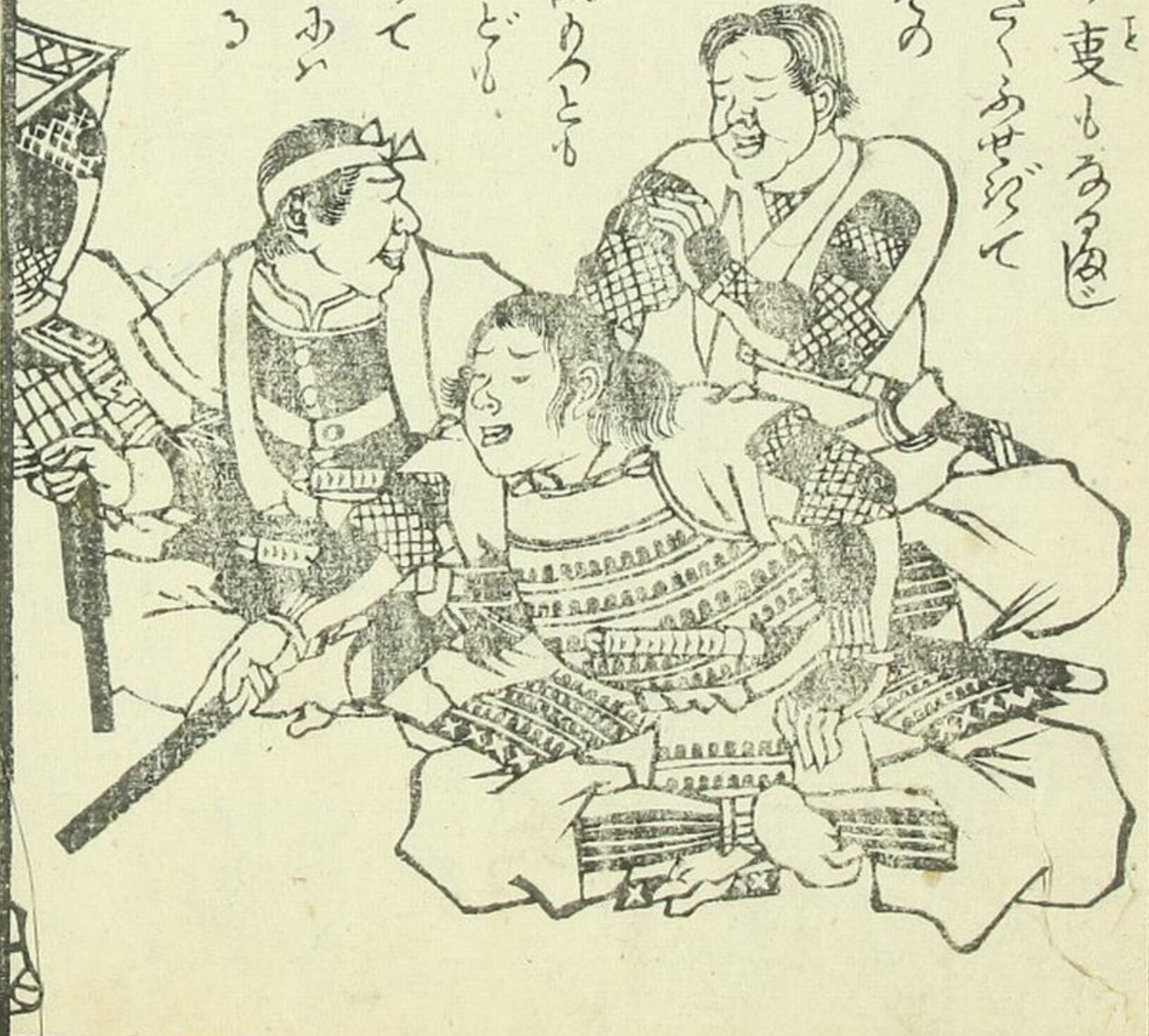
△高岡と  
△佐土原

の報知とさきより  
も本庄より左折  
して八月一日廟  
堂寺より

築立りと嚴重おかたなりさすも  
官軍の兵と三子にころち佐土原より  
前面一ツ瀬川へ三好少将の軍  
三浦少将の分遣隊七中隊もさきにあひ  
又山田少将の軍は賊の左側をうらんと各隊一ツ瀬  
川をへて對陣にあらに賊軍諸隊長等  
會議あり味方の兵士都の城戦争以來救度の敗  
戦不兵士多く損亡して日々我兵力次第にあたらん  
佐土原の堅城さ敵の有とありし遺恨あるは



とゞく今更取くす更もある海  
 去る此川を楯とほしてかきあせりて  
 敵の半途ころを撃ちその  
 機ふあひあさび佐七原  
 城とよりいどさえ変かん  
 要の策ありと一人が議  
 又一人あつて出その議りとも  
 至極なる理論の似れども  
 敵あり名する智将ありて  
 川とあつてふんととるあ  
 かるる其策あつて来る  
 るる甚ごことと  
 防ぐ不利あるべ



且味方らふ中あ  
 る猶層の気  
 臆と生さる去ば今  
 宵此方より川とつて  
 官軍のつるご守備の整正  
 する処を破り味方の勇  
 気とあゆ其機ふあて  
 佐土系を復はる段も有  
 づるあが異論區ありが敗  
 走るても強気の薩賊此方  
 らる川とつて戦ふと  
 軍議らふ決しなり時  
 回替七月の廿四日の宵闇ふ雨と

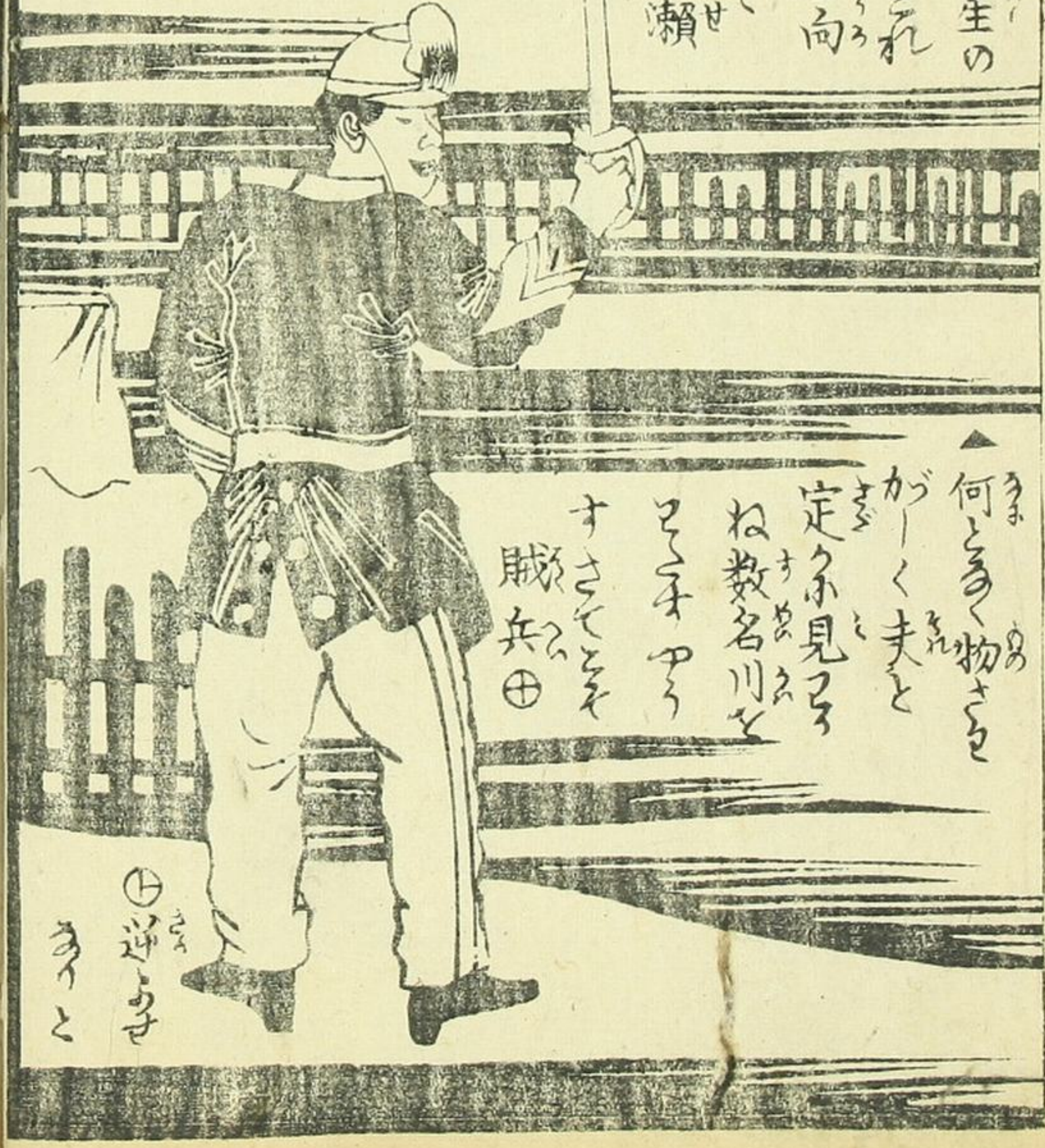


鹿野島後編八

のやうに曇天小星の  
ひくも足ふるやこれ  
幸ひと八時ころ日向  
洋より連流して  
水面青々たる瀨  
川

▲浅瀬を

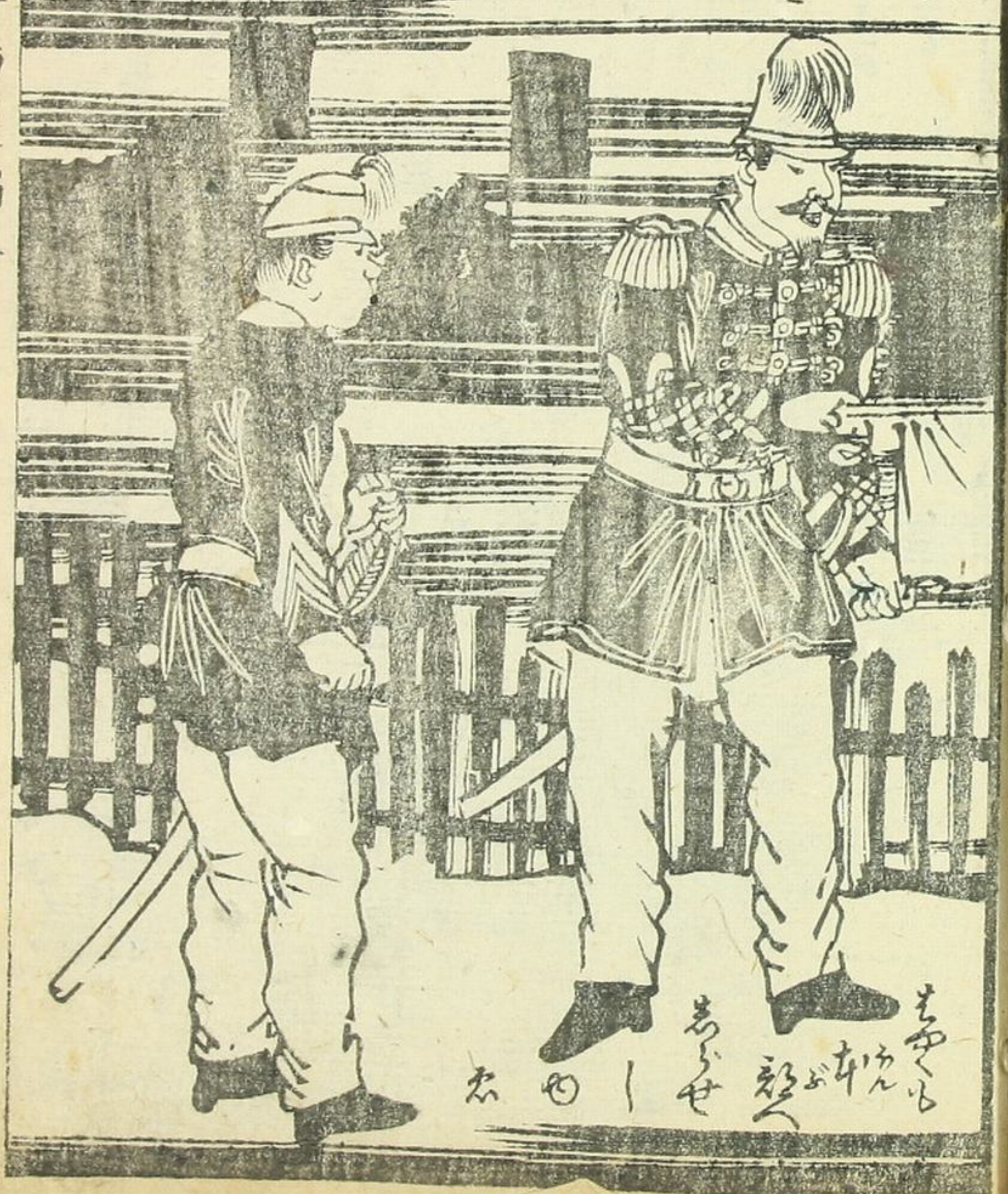
さぐりひそめ  
あつむ二百余名  
川のさうへへお  
ろりぬのさても  
官軍の方々の  
今もいそぎと



▲何となく物さる  
がくまると  
定ふ見ても  
ね数名川を  
さすやう  
すさてそそ  
賊兵⊕

⊕逆と  
ありと

幸ひに賊兵  
万一川を  
ついで逆とせ  
あつむ計  
らむと  
嚴重の令を  
下し佐官  
伍長の人々  
へ自ら線内  
をえまわつ  
そうう  
八時ころとも  
あつむ時分▲

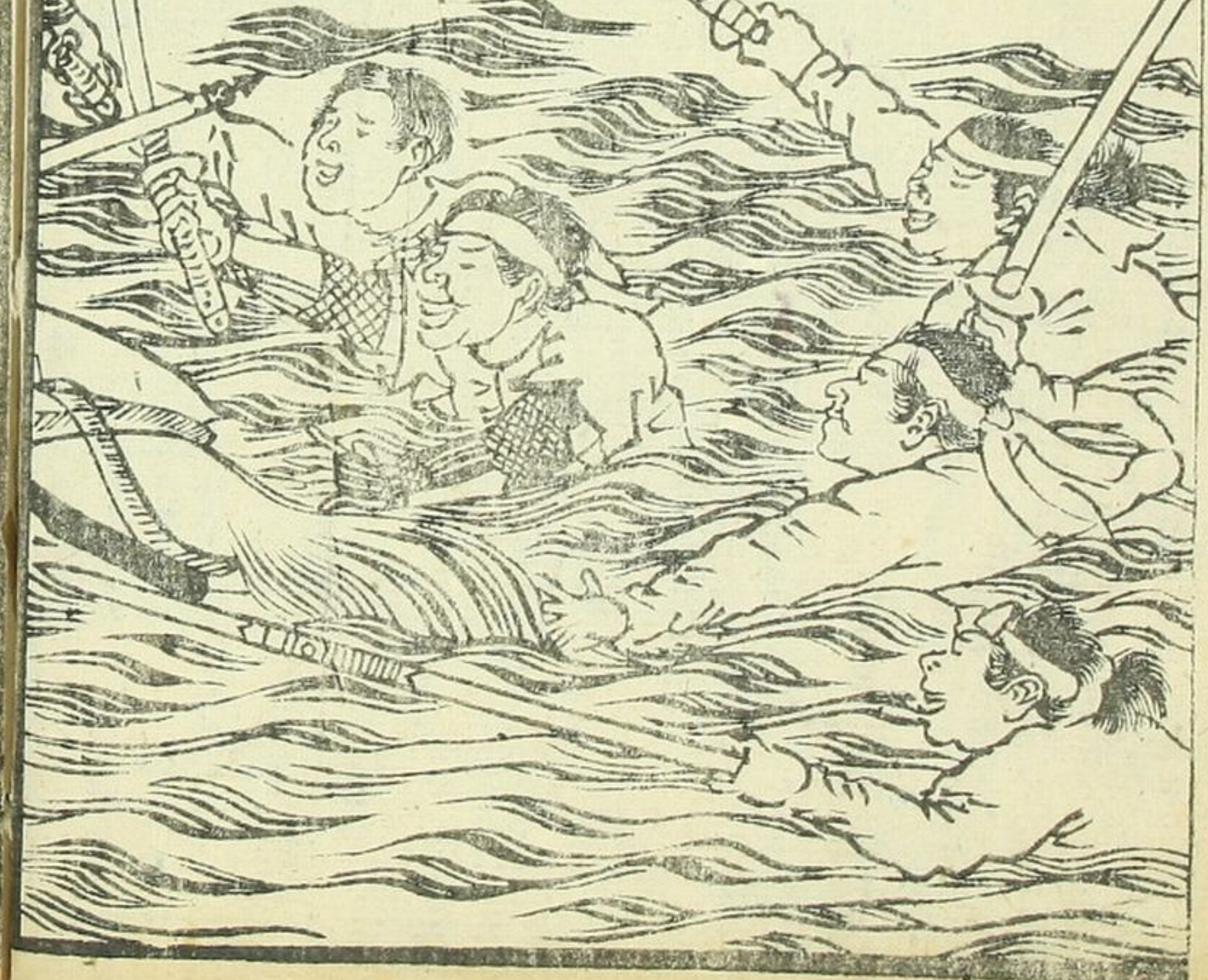


さすやう  
すさてそそ  
賊兵⊕

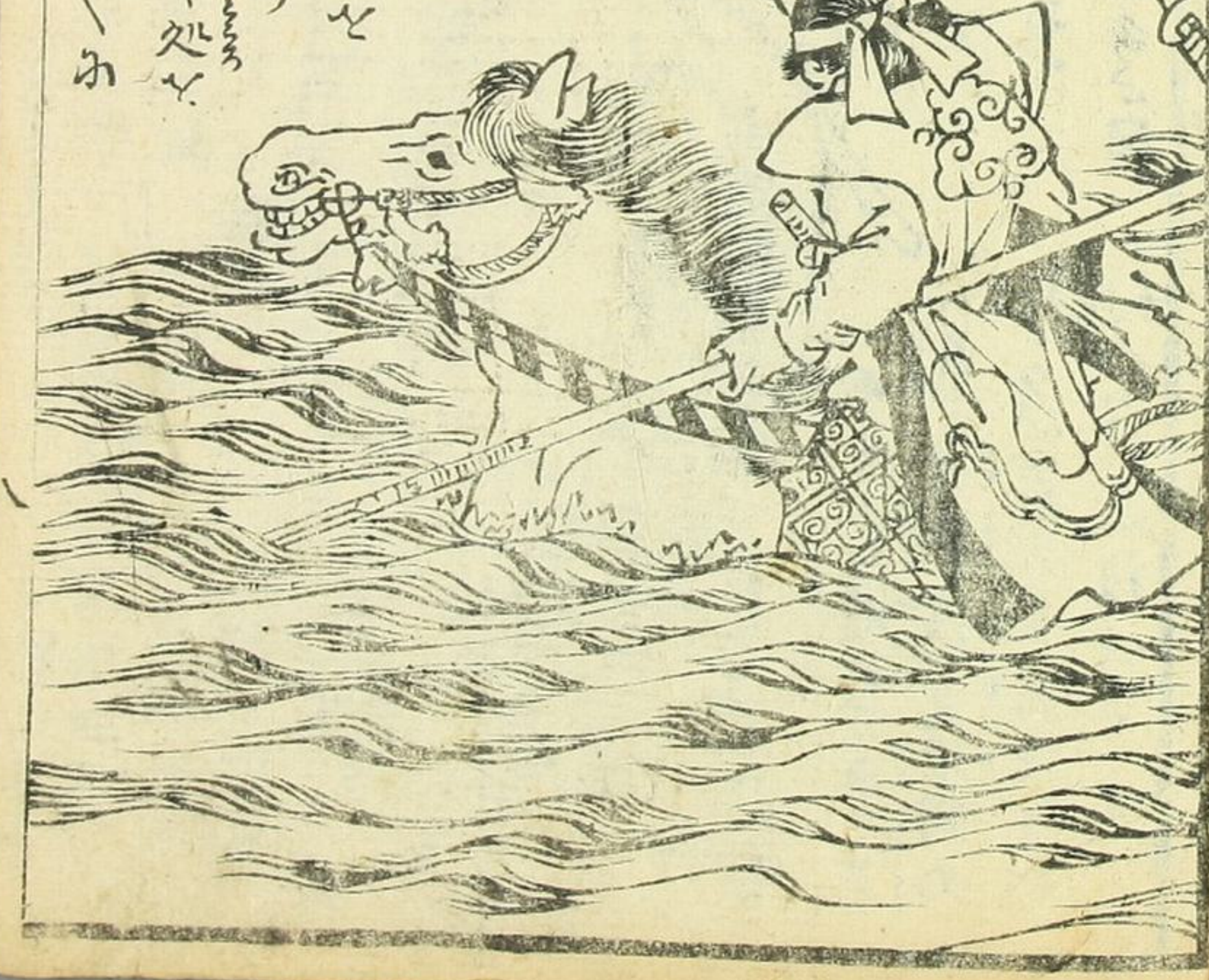
鹿野島後編八



そのこのいふ間小諸隊の官  
 軍用意一撃に備り大砲  
 三門筒先をうへふ討んと  
 まわかけたり斯と知らば  
 賊兵いかに勇氣をたの  
 こして只一挙ふらち破らんと  
 近付まわ小銃と烈敷  
 らわかけたり官軍得たり  
 と小銃と同く連発  
 ますると小銃玉水面を  
 飛走して殆ど板屋  
 とまらるあふまの  
 如くありされども



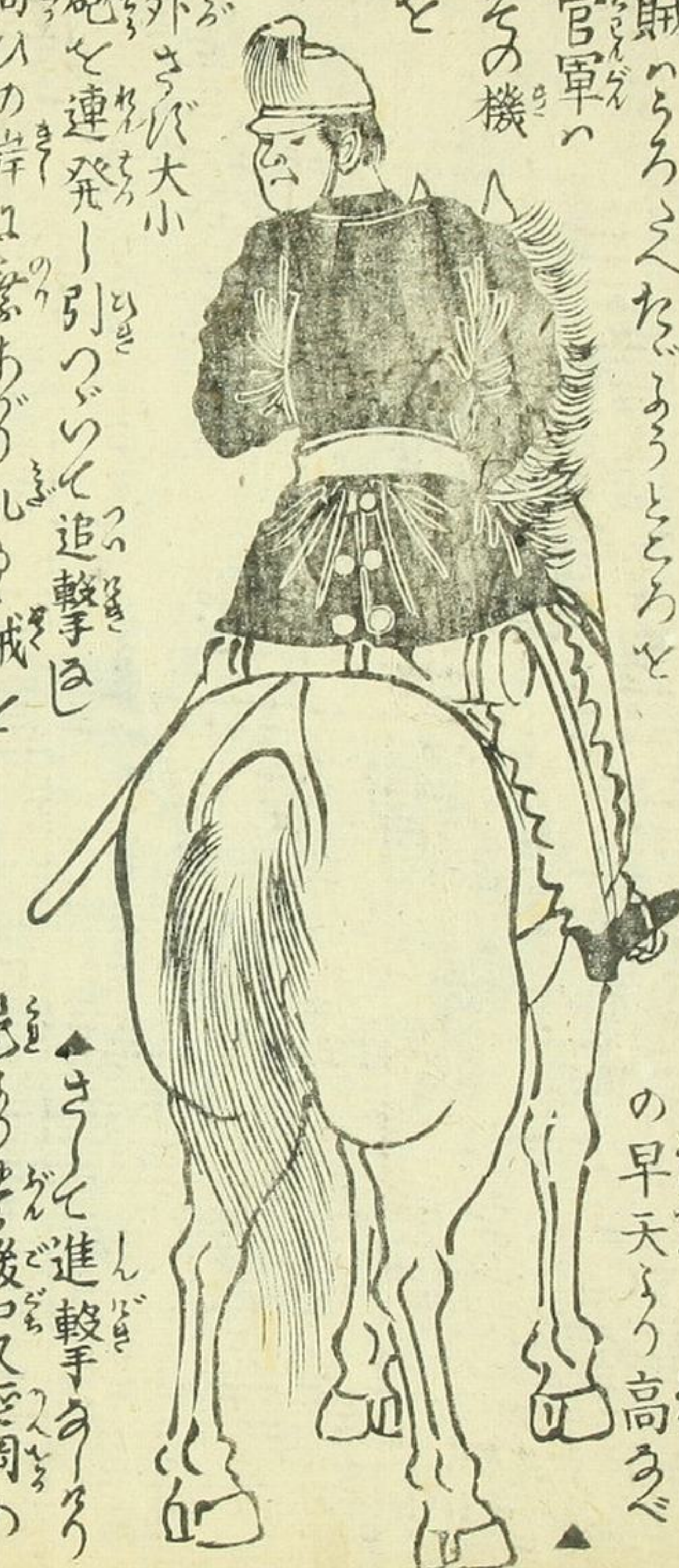
賊の川中まで身水中よ  
 あるが故砲撃も自在  
 あらばされども  
 官軍よりうら  
 出を銃丸多く  
 水中に投下  
 空丸多きあ岸  
 辺間わくく迫り  
 射撃手隊より  
 うち出を弾丸前小進巨賊兵を  
 将某倒し小水中に打こんだり  
 賊兵これみ気とらば色めく処  
 官軍あやも打立らるる賊さんくみ



敗走あり川下のかえ退くをみて  
そまゝ小銃を横合より発砲せしめ  
賊はろくえたふうととらふ

△守線とより同日  
の早天より高き

官軍の  
その機



外さば大小  
砲を連発し引ついで追撃す  
向ひの岸より勢あがり乱る賊と  
撃立ちあがり立勢ひ破竹のどくめて  
賊と四方へ追ちらし胸壁あま

▲さうて進撃あり  
是より後口又延岡の  
たうい鹿見島再戦まで  
引つれ出板仕

010190508060

